

平成18年度「黒川青少年野外活動センター」の管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1)指定管理者名	特定非営利活動法人国際自然大学校（東京都狛江市岩戸北4丁目17番11号）
(2)指定期間	平成18年4月1日から平成21年3月31日まで
(3)業務の範囲	ア 施設設備の管理運営及び維持保全に関すること イ 施設設備の利用許可及び提供に関すること ウ 主催事業の企画実施に関すること エ 青少年教育行政、市政及び地域行政への協力に関すること オ 施設の設置目的に沿った施設の有効活用と利用促進に関すること カ その他、仕様書に定める指定管理業務に関すること

2 管理運営に対する評価

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
<b>(1)総合的な運営状況</b>		
①運営管理にのぞむ基本姿勢	<p>施設の予約は取れたものの、プログラムをどう組み立てるか、どう指導したらよいか悩んでいる団体の方が多いことが分かった。このフィールドを生かしたプログラム紹介と、別の日程で「プログラム体験会」を行い指導のポイントを実際の体験を通して伝えることができた。利用団体に対しての、プログラムを立てる際の相談を受け、提案やアドバイスを行った。教育委員会とは、日頃から連絡・相談・報告を行い、年4回の指定管理者の報告義務に基づき行った。</p> <p>夏のキャンプでは、国際自然大学校のボランティアスタッフが関わってくれたことにより、キャンプ運営をスムーズに行うことができた。今回はじめての試みであった「自然体験フェスティバル」では、国際自然大学校の専従職員3名、実習生とボランティアスタッフが前日の作業から、片付けまでを支援した。</p> <p>利用者との距離を縮めるため、親しみのある対応を心がけた。その結果、利用者アンケートでは、職員の対応に関して「親切に対応してくれた」という意見を多くいただいた。受付用のファイルを作り、各部屋の掃除の仕方や用具を記したカードを作成し入れるようにした結果、好評をいただいた。また、備品表、駐車カード、利用確認書等、従来あったものを改善し、イラストや写真を入れて分かりやすい資料作りに務めた。宿泊利用者用に、オリエンテーション用のパワーポイントを作り希望団体に実施した。</p>	<p>青少年野外活動施設としての基本理念を十分に理解し、利用者が活動しやすい施設となるように努めている。</p>

(2)事業実施状況

①料金設定及び料金徴収

無料施設につき該当なし

②施設の活用方法と提供できるサービス

食育プログラムとして、「味噌作り」を行った。幼児～年配の方まで幅広い年齢層の方々の参加があり、利用団体が少ない冬の時期のプログラムとなった。

自然体験フェスティバルで行った「ヨモギ団子」作りでは、地元の老人会の方々に指導をお願いした。

小学校低学年向けに初めてのお泊りキャンプを行った。低学年のキャンプのニーズは大変多い。

聴覚障害を持った子どもたちを対象に、竹をつかったおもちゃを作る指導を行い、作って、一緒に遊ぶプログラムを行った。

自然体験フェスティバルでは、ネイチャーゲーム、プロジェクトワイルド、ツリークライミング、ヨモギ団子作り、竹細工、ネイチャークラフト、ドラム缶ピザなど15種類の体験できるプログラムを行った。

指定管理者の専門性と、施設の立地を活かした新規プログラムを開発し多くの参加者を集めている。

主催事業

事業名	期 日	対 象	内 容	参加者数
黒川サマーキャンプ	8/16～8/18	小学3～6年生	テント泊、キャンプファイヤー、野外炊飯、ウォークラリー等	49名
黒川ファミリーキャンプ	7/31～8/1	小学1～6年と保護者	ウォークラリー、竹細工、流しそうめん	19組
親子アウトドア教室	10/22 11/19 1/21 2/18	小学1～6年と保護者	アウトドアクッキング、ツリークライミング、落ち葉プール体験、竹楽器作り	延36組
黒川のおもちつき	12/23	関心ある市民	もちつき、しめ飾り作り、おぼろ餅作り、ネイチャークラフト、石焼いも等	400名
野外活動指導者セミナー	5/14	青少年団体指導者	危険予知トレーニング	20名
はじめてのお泊りキャンプ	7/15～7/16	小学1～4年生	ゲーム、野外炊飯、ナイトハイク、流しそうめん	41名
親子里山体験教室	3/4	3歳～小学6年生と保護者	オリエンテーション、ざる豆腐作り、味噌作り	15組
黒川自然体験フェスティバル	3/21	関心ある市民	ピザ焼き体験、ネイチャークラフト、ツリークライミング、モンキーブリッジ等	300名
指導者(引率者)のためのプログラム体験会	7/1～7/2	利用団体引率者 高校生以上	工具の使い方、アウトドアクッキング、ナイトゲーム、アドベンチャーツアー、竹箸作り等	16名
プロジェクトワイルド講習会	12/2～12/3	青少年団体指導者 18歳以上の関心ある市民	プロジェクトワイルド講習、実習	14名
冒険教育プログラム体験会	3/26	教員 18歳以上の関心ある市民	オリエンテーション、実技講習	
里山ボランティアクラブ	2/17～2/18	18歳以上の関心ある市民	炭・竹炭焼き、椎茸駒打ち	14名

<p>③施設の利用促進策</p>	<p>ソフト面に関しては、ドラム缶を用いたピザ焼き、石焼きも、ドラム缶風呂、竹細工等を新規に作った。センターでおこなうことの出来るプログラム開発の途中である。冊子にするまでは行えていない。</p> <p>受け入れの整備に関しては、マニュアルを作成したり、備品表の改訂、駐車カードの作成、受付ファイルを作成し利用者が使いやすいよう工夫を行った。宿泊利用者には、パワーポイントを使い、オリエンテーションを行うことができるように準備をした。</p> <p>広報は、センター独自のホームページを立ちあげ、またブログを12月から行っている。市のホームページにリンクをはった。</p> <p>市政だより、ミニコミ誌、タウン誌への掲載依頼や、チラシに写真等を多く使い、事業のイメージをつかんでもらえるよう工夫を行った。</p>	<p>立地や設備を活用した提供プログラムを開発するなどの工夫が行なわれている。</p> <p>広報についても、充実したホームページによる情報提供や、マスコミを活用したPRなどの工夫が行われている。</p> <p>提供プログラムの資料化をすすめること。</p>
<p>④施設の利用に関する業務</p>	<p>利用受付の方法は従来通りのものを引き継ぎ、利用者に混乱を与えることなく行ってきた。</p> <p>事前確保、市内団体優先受付についても昨年度までの利用規則に従って運営を行ってきた。</p> <p>親しみのある対応を職員全員が心がけて行ってきた。施設の利用に関しても、センター条例および施行規則に従って行った。</p> <p>申し込み方法は、従来通りの方法で行っている。申請書の郵送、FAX、インターネットで行えるようにと考えたが、利用者と顔を合わせての利用確認をすることの重要性に気づき行わない方向となった。</p> <p>パワーポイントでオリエンテーションスライドを作成した。季節に合わせた情報を利用者に提供できるようにした。映像を見せながら職員が話をすることで、分かりやすく・理解を深めてもらうことにつながった。</p>	<p>施設の利用実態を充分勘案し、縦覧の受付方法を踏襲しているが、受け入れ時のオリエンテーション等、より利用者に理解しやすくする工夫をするなど、施設をよく理解した運営が行われている。</p> <p>対面受付の利点を残しつつも、反復利用団体等については、簡便な利用申込ができるような工夫について検討すること。</p>
<p>⑤自主事業</p>	<p>子どもたちが気軽にセンター内で遊べるように、センターの竹を利用した竹馬、竹ポックリ、土手滑りにソリを置くようにした。各アクティビティについては、対象年齢や実施時間、人数や備品等様々な条件の中で、利用者の求めるもの、ニーズを意識しながらセンターで行うことのできるプログラムの幅を広げている。ドラム缶ピザは、センターの大人気プログラムとなり様々な利用団体に対して指導を行った。センターの竹を利用したクラフトを考案し、利用者に楽しんでもらうことができた。また、質の高い指導が行えるように、職員の研修にも力を入れている。</p>	<p>利用者がより楽しめる遊具の開発や設備の設置を自ら作成するなど、経費負担を最小限にした事業実施が行われている。</p>

(3)管理業務の実施状況		
①施設及び設備の維持管理	<p>専門の業者に施設の管理を委託することで、日常の清掃作業では手の行き届かない部分や高所作業を要する部分の作業負担と危険回避につながり、また、適切な設備の保守点検等が図られ、職員は、安心して施設運営へ力を入れることが出来た。</p> <p>施設が出来て15年経過し、所々修繕すべきところや買い換えなくてはならない備品等が出てきた。教育委員会と相談し、計画的に備品の入れ替え、購入、修繕等を行っている。</p> <p>警備は引き続き同じ業者へ委託し、今年度、警備会社のリース契約で、AED（自動体外式除細動器）を施設に設置した。職員はその使用方法等の講習を受けたことにより、利用者へ使用方法を的確に伝えられるようにした。</p> <p>利用者各自に清掃を呼びかけ、どこまでの清掃をお願いするのかを明確にするために、「清掃チェックシート」を各部屋ごとに作成した。受付ファイルと一緒に渡し、その際に使い方を説明している。そのチェックシートをもとに、最後職員と一緒に点検をしてもらうように改善を行った。</p> <p>年に2回の防災訓練を行い、夜間宿泊者がいる場合には、鍵の引渡しの際に、緊急連絡先一覧を渡し、施錠、火の管理、AED等について団体の引率責任者へ確認を行うようにしている。</p> <p>年4回の指定管理の報告義務に基づき光熱水費の台帳を作成し報告を行っている。</p> <p>維持・管理経費削減と資源の有効活用を兼ねて雨水貯水タンクをドラム缶で作り、屋外に撒くために使う水に利用している。</p>	<p>施設の管理についても、充分目が行き届いている。管理委託先との連携も充分取れている。無料施設であり、宿泊利用者に自己管理を求めているが、充分な説明によって問題なく利用されている。</p>
②危機管理	<p>緊急時の対応についてのミーティングを行い、役割等の確認を行った。夜間の利用団体のみになってしまう時間帯の対応として、緊急時の連絡先表を渡し、当日の担当職員の連絡先を告げるようにしている。</p> <p>7月にAEDの取り扱いを含めたメディックファーストエイドの講習会を職員3名が受講した。安全対策チェック項目は、国際自然大学校のものを使用し、職員、ボランティアスタッフと読みあわせを行った。</p> <p>安全教育として、職員はリスクマネジメント講習やMFA（メディック・ファースト・エイド）の講習を受け、定期的にトレーニングをしている。「使用してはいけない」と一方的に禁止してしまうのではなく、安全管理とダイナミックな活動のバランスを常に意識し、利用者への安全教育、安全確保を行った上での利用方法を説明している。</p>	<p>指定管理者は各地で同種の施設の管理運営を行っているため、危機管理についてもその経験が活かされ、十分な対策がとられている。</p>
③業務委託（再委託）	<p>4月より、新たに選定した専門企業に委託し 清掃業務・施設点検、整備・害虫駆除等をお願いしている。</p>	<p>総合委託方式として職員の管理業務負担を軽減している。</p> <p>委託先との連携が良くとれているため、維持管理は適切に行われている。</p>

<p>④雇用職員及び職員配置</p>	<p>一般職員  (マネジメント担当) : 元市職員から国際自然大学校での雇用が変わって、引き続きセンターの経理、庶務として関わった。  (プログラム担当主任) : 国際自然大学校職員  (プログラム担当) : 国際自然大学校職員  夏の主催キャンプ、自然体験フェスティバルの際に支援を本部へ要請し支援した。</p> <p>利用者にとって魅力ある施設、プログラムを提供するために、センターでのプログラム指導の後には、事後ミーティングで必ず自己評価を行い所長や他の職員からのフィードバックを受け、日ごろからの切磋琢磨を心がけた。また、パッケージプログラムの講習会や、火起こし、川崎市で行われる青少年教育施設職員向けの研修等に参加し、スキルアップを図った。  職員3名は7月にメディックファーストエイドの講習会を受け、AEDが適切に使えるためのトレーニングを行った。  また、キャンプ協会、清里ミーティング、CONE(自然体験活動推進協議会)フォーラム等の野外活動指導者の集まる催しに参加し、様々な情報を取り入れたり、顔を繋げることができ、センターの業務にプラスとなった。</p>	<p>固定職員で日常の運営を行い、必要に応じて本部等から応援を入れる効率的な職員体制がとられている。また、危機管理から事業実施にいたる必要な研修を積極的に取り入れ、職員の専門性の向上が図られている。</p>
<p>⑤個人情報保護及び情報公開</p>	<p>主催事業を行う際の、個人情報はその事業内でのみの使用とし、ボランティアスタッフに配布した名簿等は事業終了時の回収を徹底した。  センターのホームページやブログに使用する写真は、必ず本人(未成年の場合には保護者)に確認の上での使用するよう職員会議で周知徹底を行った。  年4回の指定管理の報告義務に基づき、経理・庶務その他報告を教育委員会に送付している。  センター、野外活動に関わる情報については、センターホームページ、ブログ、センター内掲示、パンフ、所報等で提供、公開している。</p>	<p>個人情報保護及び情報公開には充分配慮されている。</p>
<p>⑥苦情処理、説明責任、自己評価、満足度調査</p>	<p>苦情へはいち早く取り組み、所長へ報告し職員全員がその情報を共有できるようミーティングを行った。  事業終了後、参加者のアンケートを職員で共有するとともに、利用団体へのプログラム指導後は、必ず自己評価と、他の職員からのフィードバックを受けるようにした。  次回に繋がる改善点を見出し、職員全員が同じ情報を共有できるようにした。</p>	<p>利用者の意見を十分に聞き、苦情・要望などに直ちに対応するなど、利用者の満足度を高める努力がなされている。</p>

(4)収支状況

①年間収支計画

予算内でおさめることができた。  
しかし、施設内に修理、交換しなければいけない箇所が残った。  
プログラム開発のために、備品費・消耗品費は、当初予算の枠を超えて支出したが、その結果利用団体にとって、センターで楽しめるプログラムが定着し、好評を得ることができた。

利用者サービスの向上と効果的な運営ならびに施設の修繕への配慮に努めながら、収支の均衡が図られた、安定した管理運営を継続すること。

		(単位 千円)
収入	指定管理料	22,250
	主催事業参加費収入	1,124
	その他	705
収入	合計	24,079
支出	合計	23,995
差引		84

3 管理運営に対する全体的な評価

指定管理者の専門性が十分発揮された事業展開と管理運営が行われた。また、従来からの利用団体や地域住民からも好評を得ており、指定管理者制度が十分機能している。

4 来年度の管理運営に対する指導事項等

無料施設のため、利用増が経費負担増につながると言う指定管理者として困難な運営を強いられる施設ではあるが、指定管理者の専門性を活かし、市民のために意義のある施設としていくよう管理運営にあたること。